

彼岸だより



東澤山 菜流寺
 住職 武山清堂
 〒 421-2102 静岡市葵区油島 122
 電話 054-294-1215
 (電話は秘在寺へ転送されます)

◆お彼岸

はーなよいつ



尽日春を尋ねて春を見ず
 芒鞋踏みあまねし隴頭の雲
 帰り来つて却つて梅花の下を
 過ぐれば

春は枝頭にあつて既に充分

これは今から千年程前の中国の詩人、宗の戴益の『探春』という詩です。意味は「春を待ち焦がれて探しに出かけました。一日中草鞋が切れそうになる程ほうぼうを探し歩きました。でも春らしい景色は何処にも見当たりませんでした。疲れ切つて我が家にたどり着き、ふと庭先の梅の木を見たら、そこに花が咲いていました。なーんだ春は自分の家にあつたではないか。」という私の大好きな詩です。春は私たちが探し求めている最も大切なものです。そしてそれは私達の身近なところに何時でも何処にでもあります。

看脚下。

◆春彼岸法話の会

三月十九日(火)

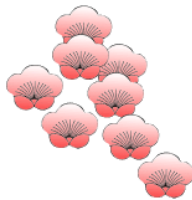
午後二時

講師は長野県木曾町

林昌寺住職 今井昌秀師

ユニークな経歴をお持ちの和尚様です。

檀家でない方も参加できます。ご近所お誘いあわせてご来山下さい。



◆新年会

一月二十日午後三時から、本堂で新年会を開きました。一番寒い時期でしたがよく晴れた日だったので、本堂には暖かい日射しが入ってぽかぽかでした。参加者は二十八名で、評議委員長挨拶の後、住職と寺庭による「春の海」を聴いていただき、その後は寺庭が御詠歌「七福神の御和讃」を披露しました。皆さん御一緒に手を打つてくださったので、嬉しかったです。雑談の合間に、施主不明の位牌を確認しましたが、昔話の中でさらにいくつか判明しました。ありがとうございました。



◆大本山妙心寺奉仕団参のお誘い

第一部(静岡から藤枝)で奉仕団参を募集しています。

六月二十三、二十四日

参加費 二万円

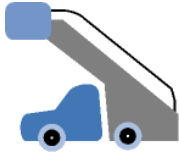
往復はバス、宿泊は花園会館でツインです。先祖供養のお経をあげていただいたあと、掃除、山内拝観、帰りにはお買い物の時間もあります。ご希望の方は秘在寺に申し込み書がありますのでどうぞ。

◆ 今後の営繕計画

★ 離れ二階の屋根にカヤが二ヶ所自生して、瓦屋さんに依頼して取り除き、土を入れ直して上つてお願いました。実際に屋根に上つてだけ貫きました。下から見える二ヶ所だけでなくあちこちに草が生えていました。三月中に実施する予定です。



★ 本堂東側の大木は楠(タブノキ)と言います。枝が境内にかぶさつて来て、日当たりが悪く、春から夏にかけて落ち葉が多かったので、枝を下ろすよう大川組に依頼しました。イヌグス、タマガス、ヤマグスと別名、枝葉には粘液が多く、線香や蚊取り線の粘結材として使われます。



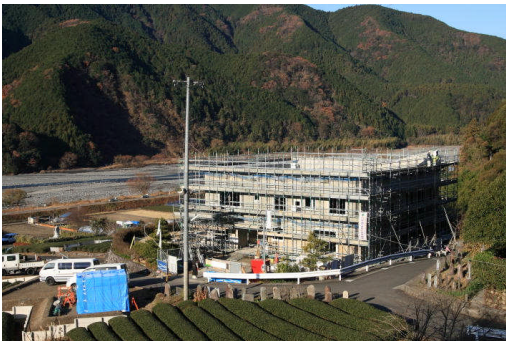
◆ 静岡市仏教会花まつり



四月五日(金) 市民文化会館中ホール
 法要 午後一時
 講演 午後一時五十分
 講師 毒蝮三太夫
 入場無料です。お誘いあわせてお出かけ下さい。甘茶の接待もあります。

◆ 秘在寺本堂建設工事について

秘在寺では昨年六月より、本堂建設工事を始めており、三月末の竣工を目指して、現在仕上げ工事が進んでいます。落慶法要を四月二十日に行います。



◆ 俵沢上村の石塔石仏

こがわ地蔵。上村大銀杏の元にあり、菜流寺で毎年施餓鬼の折に俵沢町内の祭りとして供養しております。焼津小川海蔵寺の川除地蔵を勧請したと推測されます。(左から三か四体目)
 四体目の地蔵菩薩には弘化三丙午年六月二十四日 施主 大村喜兵衛と記されております。

● 一字一石法華経塔。
 これは何かの供養や祈願を目的に、法華経一卷六万九千七百五十四字を一個の小石に一字ずつ写経して埋納した上に建てた石塔だと思われます。(最左側)

● 庚申塔(最右側) 詳細不明

